

家族のモンダイ

「財布がない！」の巻

人間関係でいちばん

面倒なのは
家族のカンケイ……



回答者

佐々木炎

日本聖契キリスト教団中原キリスト教会牧師。教会で介護保険事業所を運営。介護福祉士・介護支援専門員として現場で奮闘中。東京基督教大学国際キリスト教福祉学科助教。



相談者

50歳の主婦

82歳の母親と同居している。
母がこのごろおかしいことを言
いだした。



母は最近、「財布がなく
なった」、「お金がなくなっ
た」などと言います。先日
「取ったのはあなたでしょ」と言われ、
「私じゃない」と言っても聞いてくれ
ず、腹が立ちました。認知症が始まっ
たのかしら？、クリスチャンとして、
どう対応したらいいのでしょうか。



認知症の理解

泥棒呼ばわりされて大変で
したね。その気持ちは大変よくわかります。
お母様の言動や状況を理解していくことで、
どのように対応したらよいかを考えてみま
しょう。

一般的に認知症は脳の病気(萎縮・変化)
ではなく、症状を指しています。記憶障害、
判断力の低下、見当識障害、ことばや行動の
仕方を忘れていたりして起きる症状(認知機能障
害)が現れた人のことを「認知症」と呼ぶの
です。年を取ると今朝何を食べたかを忘れる

ことがあります。認知症の人は食べたこと
自体の記憶が脳に残らないので、「食べてい
ない」と言い、トラブルになるのです。

また、認知症の場合、その症状はだれにで
も現れますが、「行動障害」(徘徊や異食、情
緒不安定や昼夜逆転など)は適切なケアや支
援によって軽減され、緩和できるので、すべ
ての人に現れるとは限りません。

病院での診断・早期治療を受けるのも大切
ですが、お母様が自分らしい生活と人生を送
れるよう、「物取られ妄想」の行動の原因を
探り、対応することが大切です。

その2 病気が原因ではない

「財布がなくなった」「お金を取られた」と
発言するような行動障害は、生活や人生の中
の変化に原因があると考えられます。次の三
つの変化から考えてみてください。

第一に「環境の変化」です。定年退職や引
越し、伴侶の病気や入院、死別など、環境
の変化に順応できない状態が大きなストレス
になっていないでしょうか。

第二に「老化」です。お母様自身の骨折や
病気、失禁や歩行不安定などで、今まででき

ていたことや好きなことができなくなったと
いうことはないでしょうか。

第三に「人間関係の変化」です。友人や頼
れる人の喪失、または家族の中で疎外感を味
わうようなことはなかったでしょうか。ある
いは趣味の集まり、地域の人間関係で大きな
変化はありませんでしたか。

お母様のことばや行動をしっかりと受け止
めつつ、大きなストレスとなっている「人生
(生活)の変化」を考え、原因を探ることから
始めましょう。大切なのは、以上のような変
化によって自分らしく生きられなくなった、
というメッセージを、行動障害という形で発
信している、と理解することです。また、何
らかの助けを求めるサインをことばの代わり
に送っている、と考えてみましょう。原因が
わかることで、お母様のことばや行動の真意
を理解できると思います。そういう意味で認
知症状は、お母様にとって自分と人生を再構
築するための必然なのです。

その3 大切なのは関係性

「財布がなくなった」と思っていて困っている
お母様に寄り添い、一緒に探してあげてくだ

さい。高齢になると少しずつ人間関係が薄
れ、家族の中でも世話を受けるだけの一方通
行の関係になりがちです。でも、人はお互い
に支え合って生きることがなければ、生きが
いも喜びもありません。気にかける、心配す
る、喜ぶ、悲しむ、などの気持ちを分かち合
う「温かな人間関係」を、お母様は求めてい
るのかもしれない。また「もつとかかわり
合ひ、深い関係を取り戻すこと」を求めている
のかもしれないから、一緒に探したり、
なくなって困っていることをわかってあげた
り、自分の身に置き換えて共感してあげる
ことで、お母様の真のニーズが満たされてい
くと思います。

老いていく自分と生活の変化にうまく対応
できるよう、お母様が何に困っているのかを
理解し支援するとともに、「ご家族の中でもう
一度お母様にしかできない小さな役割を見つ
け、お願いしてみましよう。家族から感謝さ
れたら、「私は必要とされている」という実
感が持てるでしょう。この必要感こそ、人間
にとってなくてはならない生きる糧です。お
母様のこの出来事は、家族の関係を見直す、
神様から受けたチャンスと私は信じます。